

令和6年度 文京区立柳町小学校 授業改善推進プラン 5年

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 誰に何を伝えたいかを明らかにするため、事実と感想、意見を区別したり、表現を工夫したりして、自分の考えをまとめ、相手に確かに伝えること。 文章の全体像を把握し、文章を基に必要な情報を選んだり、人物の相互関係などを捉えたりして、論の進め方や表現の効果を考えながら読むこと。 互いに話したり聞いたりして考えや思いを共有し、自分の考えを広げること。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体がどのような構造で文構成され書かれているかを、場面ごとに分けながら、つかめるようにする。 言葉の意味調べを單元ごとに取り入れ、語彙を増やす。 根拠となる叙述や描写を明らかにした考えをまとめるようにする。 話す時や聞く時のきまりを決め、他者の意見を繋いでいくようにする。考えの変化や気づきをノートに記述するよう声を掛ける。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフ・地図などから読み取った数値や事象を活用して考えをまとめたり、友達の意見と比べて考えを広げたりすること。 調べる目的に応じて資料集やインターネットなどから情報を探し、課題解決につなげること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の動機付けが図れるような身近な題材を取り上げた表やグラフ、地図などを定期的に授業の導入で活用し、読み取りの技術や考察における思考力の向上を図る。 単元の始めに、児童とともに学習課題を立て、教材に取り組むための見通しをもたせて、集めるべき情報の観点を明確にした授業を組み立てる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 小数、整数の基礎的基本的な加減乗除のやり方を理解し、正しく計算すること。 未知の課題に取り組む際、既習事項を生かして取り組みの見通しをもち、粘り強く問題解決すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に合わせ、コースによって単元の指導計画や一単位時間の時間配分を変え、意味理解や技能の習熟に重点を置いて指導したり発展的な学習に繰り返し取り組んだりさせる。 指導者がこれまでの学習を想起させ、既習事項を生かせないか考えさせたり、類似点に気付かせたりする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事象、現象から疑問に感じたことを基に、自ら見通しをもって観察や実験を行い、問題解決していく力を身に付けること。 自然に親しみ、愛すると共に生活に生かそうとすること 	<ul style="list-style-type: none"> 条件制御の意味やそれによって結果がどうかかわるかを考え話し合うことで多面的な見方をすることができるようにする。 直接触れたり、見たりできるものは授業で積極的に用いていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題を見付け、その課題解決のための方法を選んだり工夫したりして、運動に取り組んでいくこと。 運動の楽しさや喜びを味わいながら、技能を高めていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が課題解決に向けて見通しをもって学習を進められる学習カードを準備する。 児童の実態に合った場や用具を準備し、運動の特性を味わえるようにする。 友達同士で見合う場を作り、互いに良さや課題を伝え合い、めあてを達成できるようにする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 教材を通じて、道徳的価値をよりよく生きる上で大切なことだと理解し、自分なりの考えをもつこと。 人との意見交流や自己の振り返りをする中で、物事を多面的・多角的に捉えて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいについての自分の考えが、深まったり変化したりしたことが分かるような板書の仕方に変える。また、教材をたどる板書だけではなく、児童の気づきを中心に黒板に記録していく。 考えたことや実生活にいかそうとする心情を見取ることができるように、「自分だったらどうか」という観点で考える時間を意図的に設けたり、ノートに考えを残したりする。

総合	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を立て、必要な資料を集め、分かりやすく人に伝える力を身に付けていくこと。 ・調べたことを様々な方法でまとめ、発表したり発信したりしていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入を工夫し、児童が自ら課題を見付けられるようにしていく。また、映像や写真などの視聴覚教材を積極的に使用し分かりやすい表現方法を工夫していく。 ・新聞、ポスター、図、表など効果的な表現方法を伝え、自分でまとめ方を選択し、発表できるようにしていく。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活体験を振り返り、自分の生活に役立つ工夫を考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の仕方に関する基礎知識を習得できるように、ワークシートなどを工夫していく。また、日常的な過ごし方の中でも、どのような取り組みがあるかを考えさせていくよう学期ごとに目標をたてていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けること。 ・音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにすること。 ・主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら様々な音楽に親しむとともに音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、旋律、リズム、強弱、速度、音色などと曲想との関わりについて理解できるようにする。運指や奏法の基礎を押さえ、スモールステップや発展的に工夫できる教材を選ぶようにする。 ・音楽を聴いて感じたこと、気づいたことを基に、互いの思いを共有しながら音楽表現ができるようにする。楽曲や演奏のよさを伝えるために、言語活動を通して、自分の思いや友だちの思いを交流させながら、音楽を味わって聴くことができるようにする。 ・導入時の音楽の出会いを既習事項と関連させながら工夫し、個人の学習活動を保証すると同時に、交流、ペア、グループ学習を有効に取り入れる。様々な音楽をバランスよく取り入れ、日常の音楽との関わりを意識できるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為を通して、造形的な視点を持ち自分なりに形や色などを捉えること。また、これまでの経験や技能を活動に応じて活用すること。 ・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、発想や構想をし、主体的に表現すること。 ・親しみのある作品などを鑑賞し、自分なりに感じとったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色からイメージをふくらませることができるよう、抽象表現にふれることができる題材に取り組む。また、既習の道具や材料については、活動に応じてできる範囲で児童からの申し出があれば使えるように用意しておく。 ・自分の表したいイメージに近づけるよう、繰り返し試しつくり変えることができるような題材や場の設定を行う。 ・自分たちの作品の他、芸術家の作品にも触れる機会をもつ。対話式鑑賞を行い、鑑賞のおもしろさを感じることができるようにする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に英語で尋ねたり発音したりして、英語表現に慣れ親しみ、話している表現の大体を理解すること。 ・日常生活に関する表現を覚え、友達と簡単なやりとりをしたり、自分のことを発表したりし、コミュニケーションをとること。 ・アルファベットの大文字、小文字を活字体で書いたり簡単な単語を書いたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語表現することを間違ってもよいことを伝えたり間違ってもよいという雰囲気をつくったりする。そして、スモールトークなどで既習の表現を使って繰り返し尋ね合えるようにする。 ・ゲームや歌などを取り入れ、楽しく単語やセンテンスを覚えられるようにする。 ・補助線入りのワークシート等で、大文字や小文字を正しく書けるようにする。